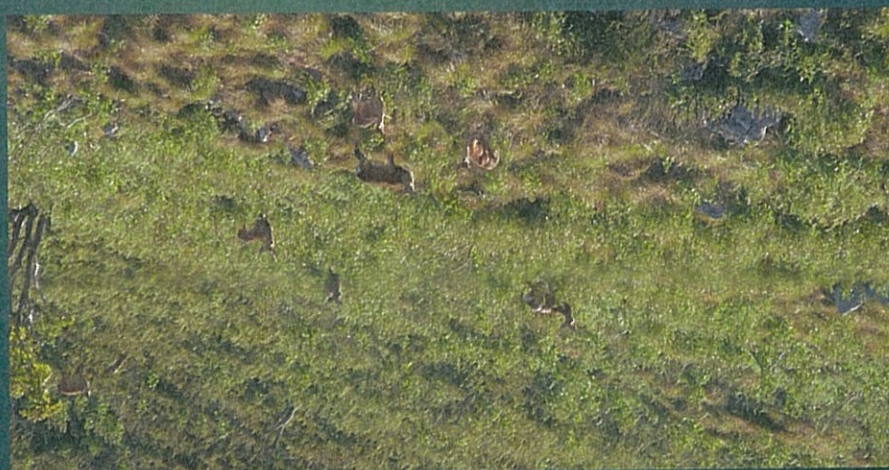
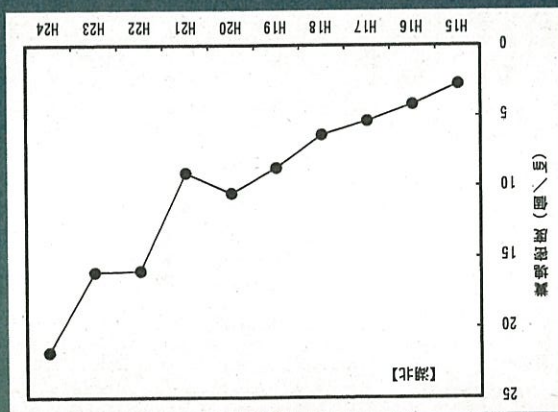


シカによるツバクト

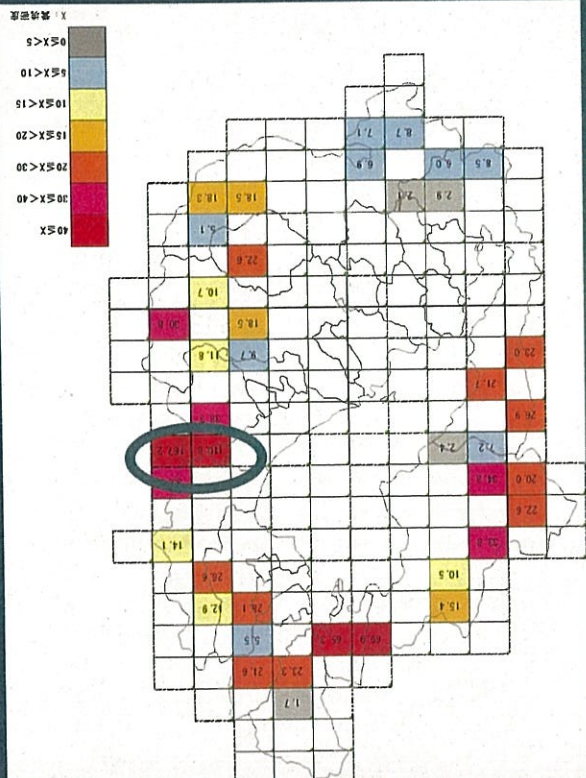


シカの生息状況

地域	推定生息数 (頭)	生息密度 (頭/km ²)
滋賀県全体	47,000~67,000	22.4~32.0
湖北地域 (米原市、長浜市)	11,367~16,204	22.2~31.7



(平成22年度)



第二種特定鳥獣管理計画

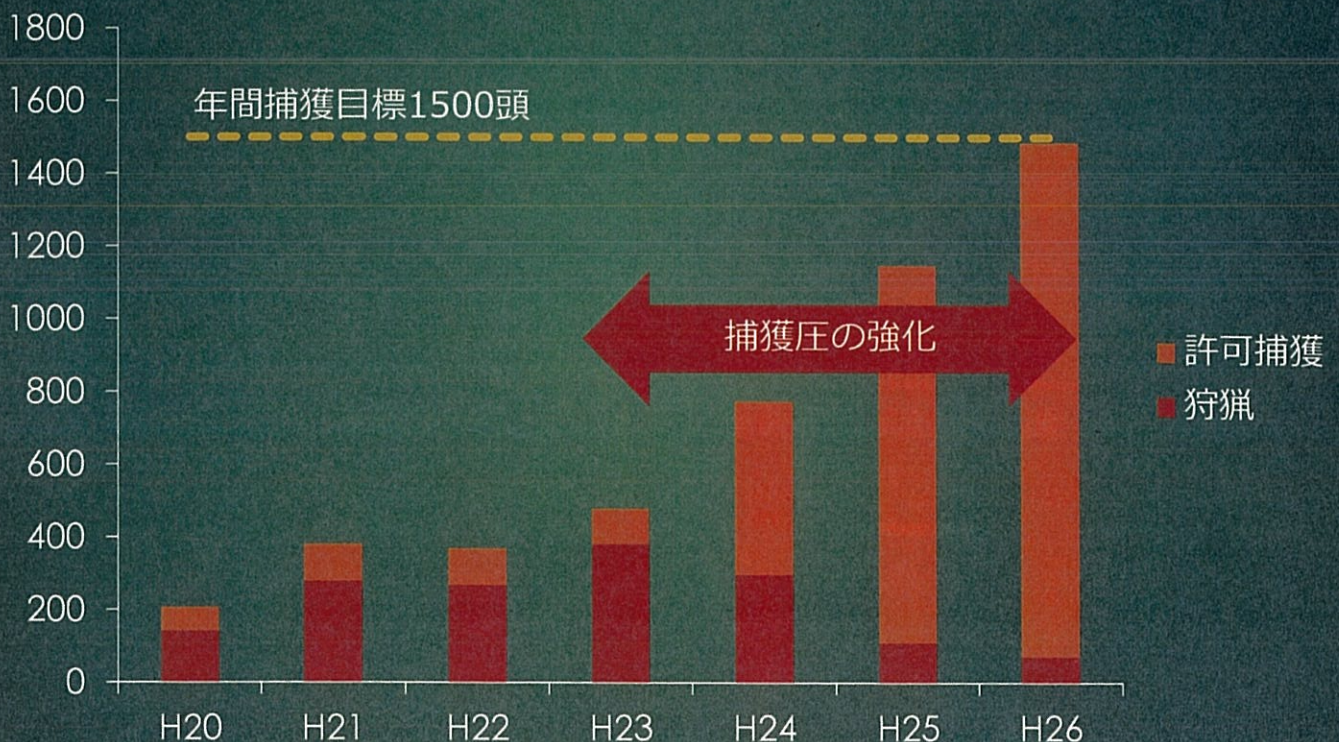
個体数の管理目標

- ▶ 当面の目標
 - ▶ 平成22年度の推定生息数47,000～67,000頭を平成28年度末までに半減させる
- ▶ 最終目標
 - ▶ 適正頭数8,000頭（4頭/km²）

年間捕獲目標

- ▶ 当面の目標
 - ▶ 年間16,000頭（メスは9,600頭以上）捕獲する
 - ▶ このうち、米原市は1,500頭捕獲

捕獲数の推移



新たな捕獲体制の構築

1 猟友会による里山での伝統的捕獲

- ▶ 猟友会員46名が従事 (H26.4.1現在)
- ▶ 里山を中心に巻き狩り猟、くわな等を実施
- ▶ 年間捕獲 シカ1,198頭、イノシシ329頭 (H26年度)

3 高標高域・奥山での広域管理捕獲



専門的・職能的捕獲技術者

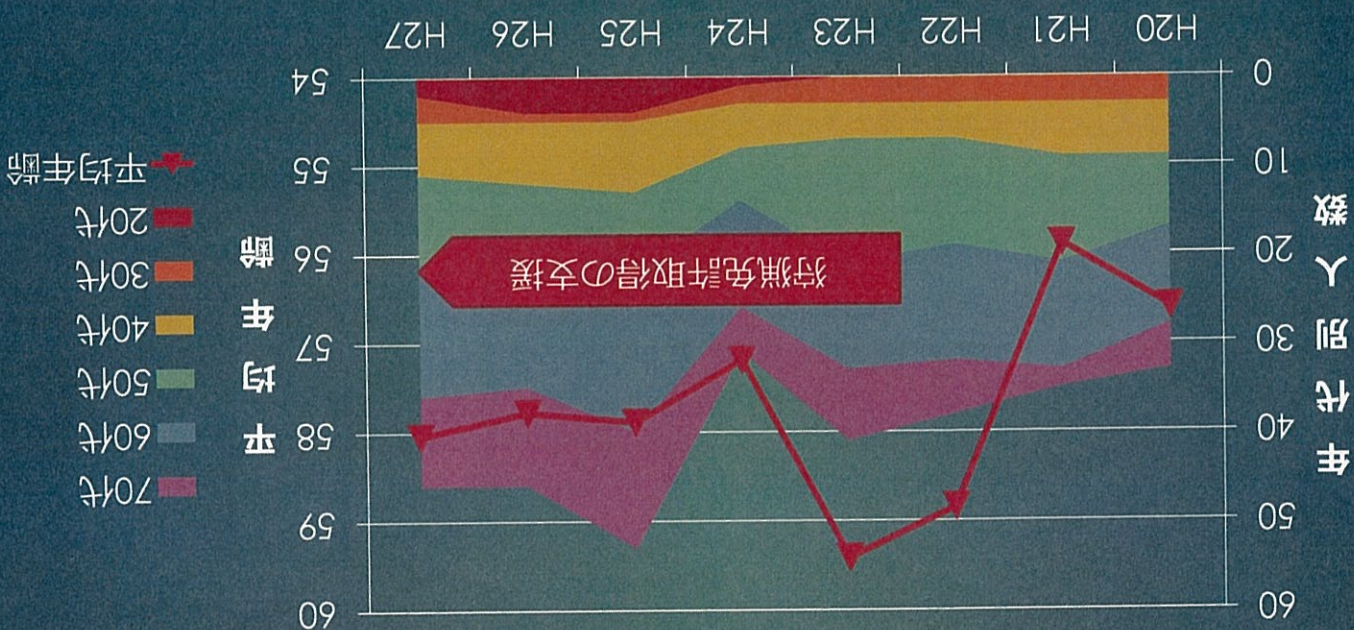
4 森林管理署と連携した捕獲

- ▶ 捕獲の空白地帯となっている奥伊吹国有林では、潜在的にシカ被害が発生
- ▶ 進入・捕獲状況をリアルタイムで把握できるICT等捕獲技術を導入
- ▶ 補助者として森林管理署の職員も捕獲活動に参加

2 実施隊を中心としたわな捕獲

- ▶ 鳥獣被害防止特別措置法に基づき、市職員と民間隊員による実施隊を編成
- ▶ AIゾート等の大量捕獲技術を導入
- ▶ 狩猟免許を有しない従事者認事業による地域ぐるみの捕獲 (旧1303特区)
- ▶ 年間捕獲 シカ188頭、イノシシ70頭 (H26年度)

猟友会の従事者数



伊吹山での取り組み

調査

- GPS首輪による行動調査
- ライトセンサスなど

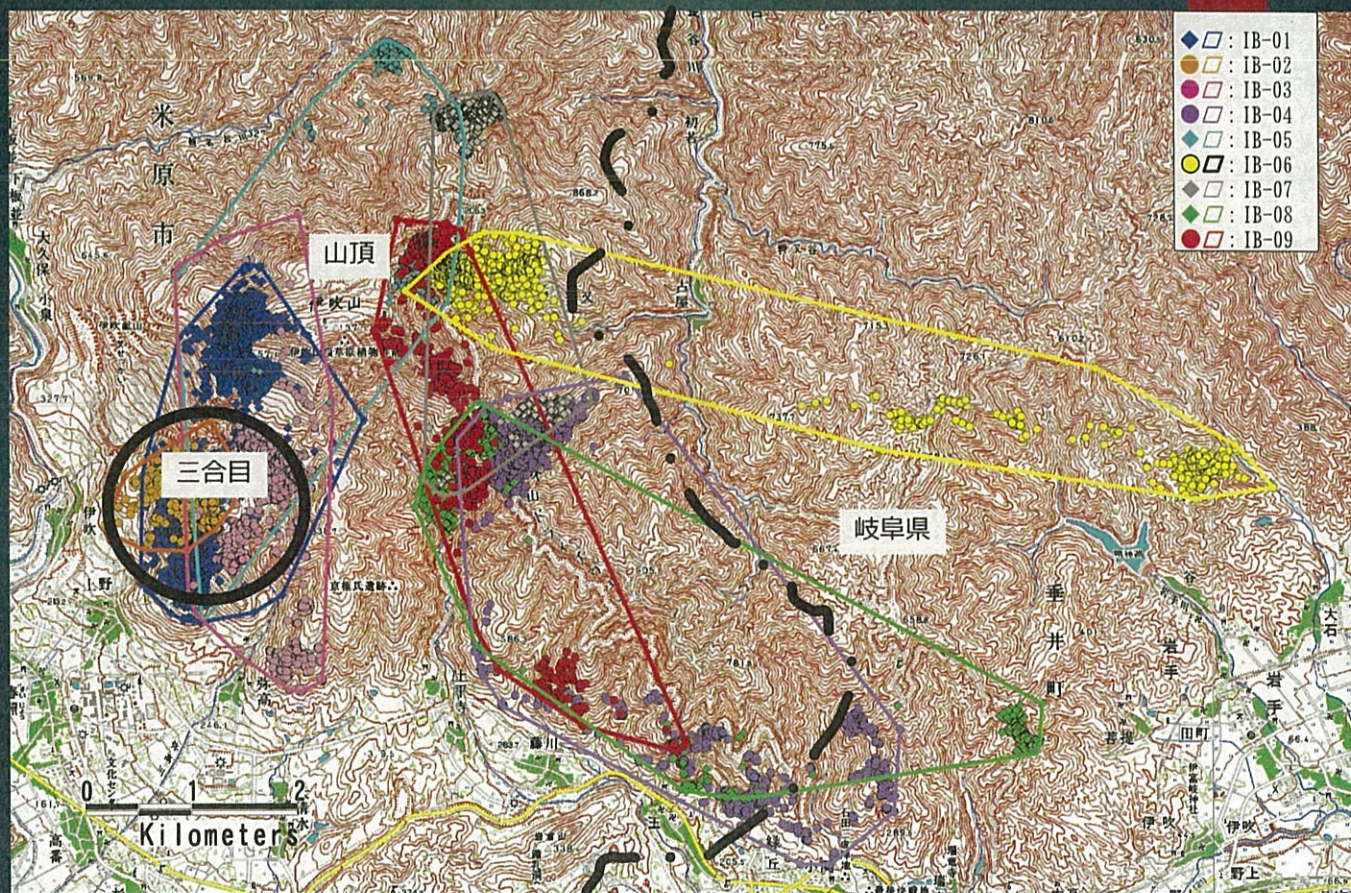
試行的捕獲

- 各種捕獲方法による
試行的捕獲

検証

- 捕獲効率
の検証

伊吹山での取り組み



伊吹山での取り組み

捕獲効率の比較

(頭/人・日)

捕獲場所	捕獲方法	箱わな	立木囲いわな	小型囲いわな	流し猟式誘引狙撃
山頂	山頂	—	—	0.10	—
三合目	三合目	—	0.91	0.60	—
山麓～三合目	山麓～三合目	0.11	—	—	0.21

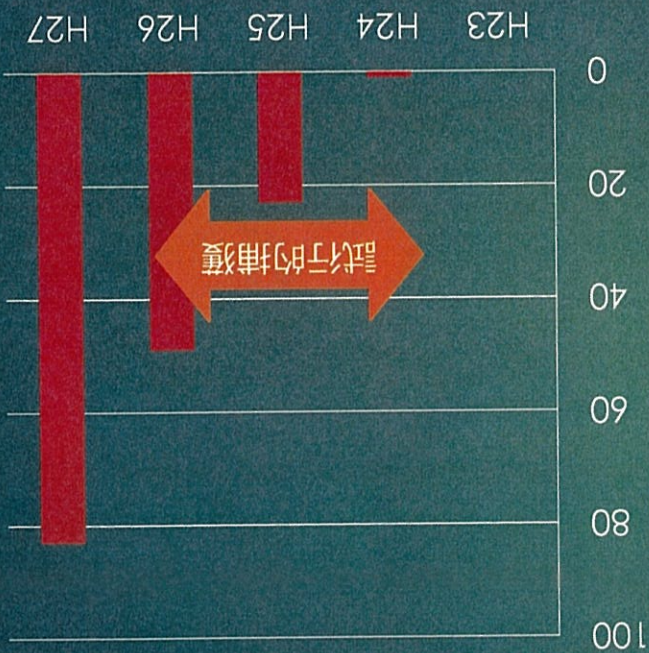
伊吹山での取り組み

平成24～26年度
試行的捕獲



平成27年度～
美施隊・地域ぐるみのわな猟
・農事業による流し猟式誘引狙撃

捕獲数



平成28年2月22日現在

霊仙山での取り組み

課題

- アクセスが悪く、捕獲の空白地帯となっている。
- 特に山頂付近のシカ密度が高い。
- 捕獲の担い手が不足している。

対策

- 地域ぐるみの捕獲推進モデル事業（H24～26）により、新たな担い手として補助者を養成し、農地周辺で捕獲を進める。
- 県事業で県下猟友会による捕獲隊を編成し、山腹を中心とした巻き狩りの実施。（平成25年度～）

霊仙山での取り組み

地域ぐるみの捕獲（旧1303特区）

計画

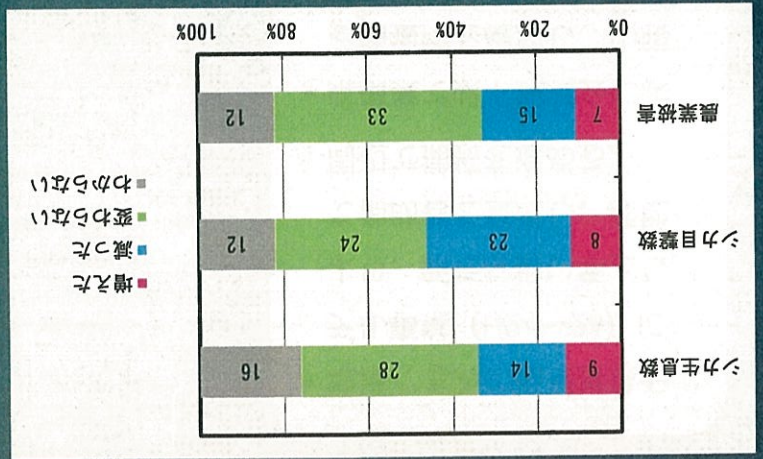
- まずは農地、集落周辺で地域ぐるみの捕獲を進める。
- 囲いわなでシカを群れごと捕獲する。特に誘引効果が高まる冬季に、シカが利用しやすい針葉樹林内を中心に捕獲を進める。
- 結果的に、高標高域から季節移動した個体も捕獲できるかもしれない。

実施

- 平成24～26年度の3か年で25人の補助者を養成
- 囲いわな15基を設置し、捕獲圧を高め、シカ139頭を捕獲した。
- シカの密度と食圧が高く、不嗜好性植物が繁茂しているため、餌付けの誘引効果は高かった。

霊仙山での取り組み

地域住民のアンケート調査結果



国有林での取り組み

課題

- アクセアが悪く、捕獲の空白地帯となっている。
- 剥皮被害が発生している。

調査

- 生息状況を把握するため、実施隊と森林管理署職員による合同調査

捕獲

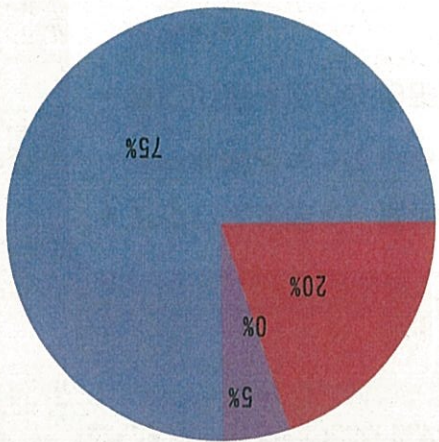
- ICT等捕獲技術の導入
- 森林管理署の職員が補助者として捕獲活動に参加



環境省 農林水産省
 抜本的な鳥獣捕獲強化対策

国有林内における新たな捕獲技術の提供・普及を図る

- 今後も事業を継続し、さらに引き続き協力したい
- 今後も事業を継続した方が良いが、協力はできない
- 今後は事業を継続する必要はない
- その他



順應的管理

